8 律令体制はどのようにして成立したのか

教科書 pp.28～29

ねらい

⑴ 大化改新が，唐の成立を契機とする東アジア情勢の流動化に対応するものであったこと，こうした政治権力の集中が律令体制形成の先駆となったことを理解させる。

⑵ 百済救援戦争に敗れた倭国が，唐・新羅の侵攻に備え国力の強化のため政治改革の必要性に迫られたこと，また改革路線の対立が壬申の乱の原因の一つともなったことを理解させる。

授業の導入例

⑴「天皇」号や「評」名入りの木簡の写真，原寸大レプリカ（自作も可）を見せる。

⑵「天皇」号が天武・持統朝に使われたことを紹介し，「天皇」成立の時代背景について述べる。

授業の展開	指導上の留意点
1．大化改新	
⑴唐成立の影響…隋の滅亡（618），朝鮮三国での政変など緊迫する国際情勢	
⑵倭国の新政権	
①乙巳の変（645）：中大兄皇子・中臣鎌足による蘇我蝦夷・入鹿の殺害	
②孝徳天皇即位（645）。難波長柄豊碕宮に遷都。改新の詔（646）	教 p.28 史料参照。
2．百済救援戦争	
⑴百済の滅亡（660）	
…唐・新羅連合軍，高句麗制圧のため，まず百済を攻め滅ぼす。	倭国の百済救援戦争突入の背景として，百済が倭国にとって大陸文化摂取の窓口として位置づけられていたことを振り返り理解させる。
→鬼室福信の要請で，倭国は百済復興のための救援の兵を送る（663）	
⑵大敗後の倭国…白村江の戦い（663）で，倭国は唐・新羅連合軍に大敗	
①唐・新羅への防備…水城・朝鮮式山城の建設。近江大津宮への遷都（667）	
②天智天皇による内政改革…中央集権的な国家機構と軍制づくりをめざす。	
例）庚午年籍（670）：初の戸籍	
3．壬申の乱と天武朝の成立	
⑴壬申の乱（672）：天智死後，その子大友皇子対天智の弟大海人皇子の内乱	壬申の乱が地方豪族をも巻き込む大規模なものになったことが，天武朝の諸政策を生み，その後の律令体制の性格をも規定したことを指摘する。
→大海人皇子の勝利。飛鳥浄御原宮で即位＝天武天皇	
⑵天武天皇の政治…隋・唐を手本に，中央集権的な律令国家の建設をめざす。	
①中央官制の整備　②律令・歴史書の編纂着手…「帝紀」「旧辞」の訂正など	
③八色の姓（684）：真人・朝臣・宿禰など８姓。豪族の身分秩序を再編	
④藤原京の建設開始（682）　⑤銅銭の使用開始…初の銅銭＝富本銭	
⑶律令にもとづく国家体制…天武の死後，皇后即位＝持統天皇	
① 689 年…飛鳥浄御原令の施行	
② 690 年…庚寅年籍の作成＝戸籍制度の完成	この時期，全国各地で寺院の造営が爆発的に増加しており，仏教文化の浸透がうかがえることを，居住地の近くにある寺院跡の内容・様子に触れるなどして指導する。
③地方行政の整備…国－評－里制	
④ 694 年…藤原京への遷都：条坊制を備えた，本格的な都城	
⑤「天皇」号や「日本」国号の定着	
4．白鳳文化の形成	
…７世紀後半，天智～持統朝，仏教の影響と国家建設の意欲の反映	
⑴寺院造営…大官大寺・薬師寺（本薬師寺）などの官寺。豪族は氏寺造営	
⑵彫刻　例）興福寺の仏頭（旧山田寺本尊）	教 p.29 図４参照。
⑶絵画　例）法隆寺金堂壁画，高松塚古墳壁画	

アクティブ・ラーニングのために

⑴「改新の詔」における郡評論争や，「天皇」「日本」の初出例を紹介するなどして，編纂史料は，編纂時に，過去に遡って使用する文飾がある，ということに気づかせ，身近な例を挙げさせるなどして考えさせる。

⑵ 出土遺物という同時代史料から，編纂史料の作為を見破ることができることを紹介し，資史料の活用のためには，まずその真偽を判断する裏づけが必要であることに気づかせる。

見本
清水書院 日B313 高等学校 日本史B 新訂版 教師用指導書

図版・史料の解説

図２ **水城と大野城** 『日本書紀』によれば，水城は，664（天智天皇３）年に，「筑紫に大堤を築いて水を貯え，名づけて水城と曰ふ」（原漢文）ものとして築造された。博多側から大宰府側へと抜ける最も狭い低地部分に，東西の山・丘陵を水城の大堤がつなぐ形でこれを塞ぎ，また土塁の東西には，川の水を引き込む形で土塁と並行する外濠を作って防衛施設とした。また，大野城は，翌 665（天智天皇４）年，亡命百済人の憶礼福留と四比福夫を筑紫に遣わして築かせた，朝鮮式山城である。地形を利用した土塁や石塁，城内の倉庫群，城門扉の鉄製軸受金具などが出土し，朝鮮半島の古代山城と共通した特徴をもつことが知られる。

写真では，博多湾に向かって，右手の大野城のある四王寺山から，左手方面の牛頸丘陵に向かって水城が伸び，手前側にある大宰府政庁の防備としている。水城大堤の土塁は，総延長 1196m あり，敷粗朶とした植物が５月中・下旬から７月中旬に伐採されたものであることが判明し，唐・新羅の侵攻を警戒した倭王権が，梅雨の時期をいとわず突貫工事で水城構築を命じたことがうかがえる。

（酒井芳司「大宰府・水城」（森公章編『史跡で読む日本の歴史３古代国家の形成』吉川弘文館，2010 年））

図４ **興福寺の仏頭** 1937（昭和 12）年，興福寺東金堂の解体修理のさなか，本尊の台座内部から，西を向いた状態の銅造の仏像頭部が発見された。これが現在，興福寺の仏頭とも呼ばれる，国宝・銅造仏頭である。

仏頭は，649（大化５）年に中大兄皇子への謀反の疑いをかけられ自害した蘇我倉山田石川麻呂の菩提を弔うため，天武天皇の皇后で，石川麻呂を母方の祖父にもつ鸕野讃良皇女（後の持統天皇）の発願により，石川麻呂建立の山田寺において制作された丈六の如来像頭部である。678（天武７）年から鋳造が開始され，685（天武 14）年石川麻呂の 37 回忌に開眼供養が行われて，山田寺の本尊（『諸寺縁起集』等によれば薬師如来）として祀られた。

1180（治承４）年，平重衡らによる南都寺院焼き討ちのため，中心伽藍が尽く灰燼に帰した興福寺は，すぐさま復興計画を立て，東金堂の再建も 1185（文治元）年には成った。しかし，焼失した聖武天皇造立の丈六薬師三尊像に代わる本尊仏像の制作が進まず，1187（文治３）年，興福寺の武力集団でもある東金堂衆が，山田寺に押し入り，本尊の薬師三尊像を運び出して東金堂に安置してしまった。山田寺は，その由緒の正しさに加えて，当時興福寺と対立していた京都・仁和寺の末寺であり，前年仁和寺により，興福寺末寺の嵯峨の大覚寺が横領されていたことも，山田寺が狙われた原因とされる。

東金堂本尊となった旧山田寺薬師如来像は，その後 1356（文和５）年と 1411（応永 18）年の二度にわたり，隣接する五重塔から東金堂への延焼により罹災する。一度目には，幸いにも運び出されて難を逃れたが，二度目のときには，頭部にまで及ぶ火の手により，鋳造時の失敗で構造的に弱かった頸の下辺りの部分から頭部全体が落下し，そのときの衝撃で，破損や窪み，ゆがみを残すに至った。

白鳳彫刻には珍しく眼が強調され，永遠をめざす眼差しをもつ本像は，中国隋～初唐の彫刻の影響を受けながらも，それを日本的に咀嚼し，独自の新しい形に作り上げたものとして評価され，それがたどった数奇な来歴と合わせて，人々を魅了している。

（『興福寺創建 1300 年記念 国宝 興福寺仏頭展』日本経済新聞社，2013 年）

教材プラスα

■**「改新の詔」の教材化** 「其の一に曰く，昔在の天皇等立つる所の（A）の民，処々の（B），及び別に臣・連・伴造・国造・村首の有てる所の（C）の民，処々の（D）を罷めよ」。文中，臣・連と並んで「伴造・国造」の語があることから，この史料が律令制以前のものであることがわかる。空欄Ａ～Ｄには，ここで「罷めよ」とされたものが入る。

「天皇等」すなわち大王や王族や所有する［民］と［処々］にあるということから不動産（＝土地），そして［臣・連…］すなわち諸豪族が所有するそれらである。それらの廃止の方針を示しているのだから，この史料が改新の詔であることは生徒にも想像がつくだろう。詔が出されたのは 646 年であるが，乙巳の変が起こった 645 年と誤りやすい。また，私地・私民の収公と代替として「食封」（官職・位階に応じて一定数の封戸を設定し，その戸が出す租の半分と調・庸を与えるもの）が支給されるようになったことにも触れておきたい。

	私 有 民	私 有 地
大王・王族	A「子代」	B「屯倉」
諸 豪 族	C「部曲」	D「田荘」

なお改新の詔は，これを載せる『日本書紀』の編纂時にかなり手が入れられたと見られ，例えば第２条に見える「郡」の語は大宝令以前は「評」であった。詔への疑問から，改新の諸政策の存否や，編纂史料の虚構性についても展開することができる。

事項の解説

■唐の成立と東アジア情勢 隋は再三の高句麗遠征の失敗によって国内が疲弊し，618年煬帝が殺されて滅亡した。次いで建国した唐は628年中国を統一し，律令制に基づく強大な中央集権国家を建設した。新羅が高句麗・百済の侵略に対して唐に保護を求めたため，朝鮮半島情勢は再び緊張の色を強めた。640年代に入って三国では相次いで政変が起こり，戦時体制樹立に向けて権力集中が図られた。百済では641年に即位した義慈王が自らの母や高官を追放。また高句麗でも642年に泉蓋蘇文がクーデタを起こして国王や多数の高官を殺害して独裁体制を確立した。一方新羅でも647年の毗曇の乱（毗曇が善徳女王の退位を求めて兵を起こしたが，金庾信に滅ぼされた事件）を契機に，新たに即位した真徳女王のもと，王族の金春秋や将軍金庾信らによる強大な王権が誕生した。

■乙巳の変 いわゆる「大化改新」のクーデタ。朝鮮半島の政局に唐が介入するに及び，戦時体制をとるため，政府内部の分裂を解消する政変が生起した。政府中枢を独占する蘇我本宗家を軽皇子（孝徳）・中大兄皇子・中臣鎌足・蘇我石川麻呂らが，645年に打倒。皇極は退位し，新政府が樹立され，中央集権的な改革を次々に打ち出した。ただ，『日本書紀』の描く「大化改新」像は，多くの潤色を受けており，その事実についても多くの議論がある。

■難波遷都 難波はヤマト政権の対外交渉の拠点であった。645年12月に遷都が行われたが，当初はこの地にあった外交施設や屯倉の建物を利用したらしい。難波長柄豊碕宮が造営されて孝徳天皇が移ったのは651年，宮の完成は翌652年であった。難波宮跡は，現在の大阪市中央区の上町台地にあった。遺構は上層と下層の2期に区分され，下層の孝徳期の「前期難波宮」の発掘調査では，四方が600m以上になる宮跡から，朝堂院区画には14棟以上の朝堂の遺構と，朝堂院北端の東西には八角形の楼閣建物が発掘で確認されている。「戊申年」（648年）木簡や7世紀中葉の土器が出土していることから，孝徳期の難波長柄豊碕宮と考えられている。

■百済救援戦争（白村江の戦い） 唐は高句麗を征討するため，新羅と結んで高句麗を挟撃する態勢を整える必要上，まず660年に高句麗・倭国と友好関係にあった百済を滅ぼした。百済の遺臣は国家再興を願って倭国の救援を要請し，中大兄政権は百済の滅亡を見過ごせば唐の脅威が日本にも及びかねない危機感から，大軍の派遣を決意した。663年，2万7000の倭国軍が朝鮮に渡った。そして8月，唐の水軍と白村江（現，錦江）の河口で2日にわたって交戦し，日本は軍船400艘を失うという潰滅的な敗北を喫した。ここに百済は完全に滅亡し，百済の遺臣や遺民は数多く日本に亡命した。

■天智天皇 即位前の名は中大兄皇子，または葛城皇子ともいう。父は舒明天皇，母は皇極（斉明）天皇。645年に乙巳の変で蘇我蝦夷・入鹿を滅ぼし，孝徳天皇の皇太子として新政府の政策を主導した。さらに百済救援軍の指揮にたった斉明が661年に没した後も，皇太子の地位にとどまって称制を行った。667年，近江大津宮に遷都し，668年即位した。

■近江大津宮 大津宮への遷都については，白村江の敗戦後，唐・新羅による侵攻に備え，畿外ではあるが交通の要衝である近江が選ばれたのであろう。しかし，畿内に本拠をもつ豪族の反発は大きく壬申の乱の遠因ともなった。壬申の乱に勝利した天武天皇は飛鳥に遷都し，近江大津宮は廃された。1974（昭和49）年，錦織で内裏南門と考えられる7間×2間の大規模な遺構が発見され，内裏正殿とおぼしき大型掘立柱建物や，回廊，正殿石敷き遺構，塀，倉庫と思われる遺構も次々と発見された。

■庚午年籍 庚午年（670年）につくられた戸籍の意。「戸令」に基づき，ほぼ全国的な規模で作成された最初の戸籍である。この戸籍には良賤の区分や，氏姓の授与・確定に関することが記録されていたので，身分や氏姓の根本台帳として重視された。大宝令において一般の戸籍が作成後30年で廃棄されるのに対し，庚午年籍は永年保存が定められている。

■大友皇子 天智天皇の皇子。母は伊賀采女宅子娘（いがのうねめやかこのいらつめ）。天智は671年に大友を太政大臣に任命したが，大友は皇族や大豪族の出身ではない卑母の所生であったため，保守的な豪族層の間には反発があったと考えられる。壬申の乱で近江朝廷は滅亡し，大友は自殺。1870年に大友は弘文天皇と追諡されたが，彼が実際に即位したかどうかは疑問である。

■壬申の乱 皇太弟の地位を捨てて吉野に隠棲した大海人は，近江朝廷による大海人攻撃の動きを知って東国に走り，この地を根拠地として軍事行動を起こそうとした。大海人のもとには伊勢・美濃・尾張などを中心に多くの兵が集結し，これに呼応して大和でも大伴氏が挙兵した。一方，近江朝廷側も各地に使者を派遣して出兵を要請したが反応は鈍く，編成した朝廷軍も大海人軍の前に敗退を繰り返した。わずか1か月の戦いの末，最後の防衛戦である近江の瀬田川の戦いに敗れて近江朝廷は滅亡した。

■天武天皇 即位前の名は大海人皇子。父は舒明天皇，母は皇極（斉明）天皇で，中大兄皇子（天智天皇）の同母弟にあたる。天智は大友皇子に将来を託

見本
清水書院 日B313 高等学校 日本史B 新訂版 教師用指導書

そうとして671年太政大臣に任命したため，自らの立場を察知した大海人は出家して大津宮を去り，鸕野皇女（うののひめみこ）（後の持統天皇）やわずかな舎人を連れて吉野に隠棲した。天智没後，672年，大海人は東国に駆って挙兵（壬申の乱），乱に勝利した大海人は飛鳥に戻り，673年に飛鳥浄御原宮に即位した。

■中央官制の整備 686（朱鳥元）年9月の天武天皇の殯宮における誄（しのびごと）は，当時の中央官制の構成を示している。太政官と法官・理官・大蔵・兵政官・刑官・民官の六官が存在していた。690（持統天皇4）年には前年の飛鳥浄御原令の制定を受けた太政大臣・右大臣や八省百寮の名が見え，六官から八省への官制の再編が行われたことがうかがわれる。

■八色の姓 684（天武天皇13）年10月に定められた諸氏の族姓を真人・朝臣・宿禰・忌寸・道師・臣・連・稲置の8つに整理統合することを目的に定められた制。同日，守山公・路公ら13氏に真人姓が与えられたのをはじめとして，畿内の氏に翌年6月までに順次賜与され，大三輪臣・大春日臣ら53氏に朝臣姓，大伴連・佐伯連ら50氏に宿禰姓，大倭連・葛城連ら11氏に忌寸姓が与えられた。道師以下の賜姓は実施されず，忌寸以上のほぼ令制の五位以上の官人を氏に対応させるものであった。

■藤原京 奈良県橿原市から明日香村にかけての地にあり，香久山・畝傍山・耳成山の大和三山を含む地に造営された日本最初の都城。685年に天武天皇が宮室の地を定めたことが『日本書紀』に見えるので，藤原京の建設計画は早くからあったらしいが，天武の遺志を引き継いだ持統天皇によって691年に再開され，694年に遷都が行われた。京域は，発掘調査の進展によって，南北10条（約5.3km），東西10坊（約5.3km）からなる平城京よりも広大な正方形の都城と見られるようになった。

■富本銭 日本最古の鋳造貨幣は和同開珎であると考えられてきたが，1999年奈良県明日香村の飛鳥池遺跡から「富本」と鋳込まれた富本銭とともに鋳棹も出土し，和同開珎に先行する銅銭であることが明らかとなった。『書紀』天武天皇12（683）年4月条の「今より以後，必ず銅銭を用ゐよ」とする銅銭が富本銭そのものを指す可能性が高まった。ただ，富本銭が流通貨幣として使用されたのか，厭勝銭（まじない用の銭）であるのかという議論がある。

■「天皇」号と「日本」の国号 天皇号の使用開始は推古期と考えられてきたが，金石文の天皇表記（野中寺金銅弥勒菩薩造像記・船首王後墓誌など）から天智期と考える説が出されてきた。しかし，刻銘時期や表記内容から，表記された年代が同時代のものか否かについて疑問も出されている。飛鳥池出土木簡に「天皇」を記すものがあり，同じ溝から出土した木簡の紀年に「丁丑年」（677〔天武6〕年）とあるため，天武期に天皇号が使用されていたことを示す史料といえる。

「日本」の国号については，『令集解』の古記（大宝令の注釈書）にも「御宇日本天皇詔旨」字句が見え大宝令制下には確実に存在していた。『旧唐書』も倭国・日本伝と併記していることから，日本国号はこの時期703年の遣唐使粟田真人のときに唐に伝えられたと考えられ，天武・持統期から大宝令の成立までの間と考えられる。

■持統天皇 天智天皇の皇女で，名は鸕野讃良（さらら）皇女。叔父にあたる大海人皇子（天武天皇）に嫁し，草壁皇子を生んだ。686年，天武が没すると即位せず政を行い（称制），草壁の即位を待ったが，草壁も689年に死去。翌690年，鸕野は草壁の遺児軽皇子（後の文武天皇）の成長を待つため，自ら即位した。697年，軽皇子に譲位した後も太上天皇として政務をとった。

■飛鳥浄御原令 681年に編纂に着手し，689年に施行された令。飛鳥浄御原宮でつくられたのでこの名がある。22巻。現存せず。近江令に次ぐ2番目の令とされるが，近江令の存在を認めず飛鳥浄御原令を最初の令とする説もある。

■庚寅年籍 689年飛鳥浄御原令の施行にともなって作成が命じられたが翌春には完成せず，9月に再度「戸令に依れ」とする詔が出され，翌691年に完成した戸籍。690年詔の年（庚寅年）による名称。

■高松塚古墳壁画 高松塚古墳は奈良県明日香村に所在する7世紀末～8世紀初頭の小円墳。1972年の調査で極彩色の壁画が発見された。石室全面に漆喰が塗られ，日像・青竜（東壁）と月像・白虎（西壁）を中心に，北側に女子4人，南側に男子4人の群像をそれぞれ配する。また北壁には玄武，天井には星座が描かれていた。法隆寺金堂壁画と並ぶ白鳳時代の代表的絵画遺品であり，当時の服制や喪葬儀礼の重要な資料となっている。法隆寺金堂壁画は，1940（昭和15）年から開始された模写事業の中で1949年，不審火によって金堂が炎上し壁画が焼損した。この火災をきっかけに文化財保護法が制定され，壁画が焼損した1月26日は文化財防火デーとされた。なお高松塚の南方にあるキトラ古墳でも玄武像の存在が確認され，鳥取県淀江町の上淀廃寺からも7世紀末の壁画断片が出土している。

参考文献

・吉川真司『飛鳥の都』岩波新書，2011年

見本
清水書院 日B313 高等学校 日本史B 新訂版 教師用指導書

42 江戸幕府の政治はどのように推移したのか

教科書 pp.114～115

ねらい

(1) 安定期に入り幕府政治に変化が現れたことを理解させる。
(2) 綱吉の政治について，「武威」から「忠孝」や「礼儀」など価値観の転換が図られた政策について考察させる。
(3) 新井白石の政治について，儒学を支柱に法・制度・機構が整備されていった状況を理解させる。

授業の導入例

(1) 教 p.114 の史料「生類憐みの令」を読み，その内容について考えさせる。
(2) 教 p.114 図２から，３代将軍家光まではどのような政治が行われていたのかを考えさせる。

授業の展開

指導上の留意点

1．幕藩体制の安定

(1) 3代将軍家光までの政治→大名の改易・減封による牢人（浪人）の増加
　①かぶき者の出現　平和に適合できない武士の集団
　② 1651 年　慶安事件　由井正雪が反乱を企てる。
(2) 4代将軍家綱の政治　改易の減少策
　①末期養子の禁止の緩和
　②殉死の禁止
(3) 各藩における藩政の確立　家老を中心とした行政組織の整備
(4) 名君の登場　保科正之（会津），徳川光圀（水戸），池田光政（岡山）

4代将軍家綱の補佐役として会津藩の保科正之が選ばれたことに留意させる。

2．徳川綱吉の政治

(1) 側用人政治への転換　柳沢吉保の重用
(2) 学問の奨励
　①儒学の奨励　　林信篤の登用，湯島聖堂の建設
　②生類憐みの令　過度の動物愛護に社会が混乱
(3) 財政難とその対応
　①原因　金銀産出量の激減
　　明暦の大火後の復興
　　将軍家の浪費
　②対応　荻原重秀の登用　金銀含有率を下げた元禄金銀の発行
　　→物価の上昇
(4) 1702 年　赤穂事件　『仮名手本忠臣蔵』として歌舞伎で上演
　1707 年　富士山の噴火（宝永大噴火）

綱吉の政治を生類憐みの令のみで理解しないように留意する。

明暦の大火後に江戸の町が都市計画のもとに拡大復興したことを理解させる。

3．新井白石の政治（正徳の治）　6代家宣，7代家継の時代

(1) 朝幕関係の融和　閑院宮家の設置
(2) 外交儀礼の整備　朝鮮通信使の待遇の簡素化
　　「日本国大君」から「日本国王」へ改称
(3) 貨幣改鋳の中止　金銀含有率を改鋳前にもどす（正徳金銀）
(4) 海舶互市新例（1715 年）　金銀の海外流出を制限

学者としての新井白石の業績についても理解させる。

アクティブ・ラーニングのために

(1) 「江戸名所図屏風」や「彦根屏風」などの資料から「かぶき者」の容姿に注目させて江戸時代初期の退廃した社会の様子を考えさせる。
(2) 教 p.115 注7や，ほかに参考となる資料を用意し，「赤穂浪士」あるいは「忠臣蔵」として知られる事件が元禄期に起こったことを取り上げて，その内容や後の社会的影響などについて考えさせる。

見本
清水書院 日B313 高等学校 日本史B 新訂版 教師用指導書

67 日清戦争前後の国内政治はどのようなものか

教科書 pp.174～175

ねらい

(1) 政党の発言力が増していく中で，藩閥政府と政党の提携が始まったことを理解させる。
(2) 対外硬派の動きなどから，条約改正交渉と国内政治が深く関連することを理解させる。
(3) 伊藤博文と山県有朋の政党との関わり方の差をふまえ，立憲政友会結成の意義を考えさせる。

授業の導入例

(1) 帝国議会が予算議決権をもつことを確認し，政府は予算を自由に決められないことで，どのような困難に直面したのか考えさせる。
(2) 教 p.175 史料「自由党を祭る文」から，自由党が政府と提携する以前に，自由党員は政府からどのような扱いを受けていたのかを読み取らせる。

授業の展開

1．条約改正交渉と対外硬派

(1)条約改正への対応
①自由党：藩閥政府に接近
②立憲改進党：外国人の内地雑居に反対して藩閥政府と対立
→立憲改進党を中心に進歩党結成（1896）
(2)日清戦争の勃発→議会は全会一致で日清戦争を支持

2．藩閥政府と民党の提携

(1)政府と政党の提携
①第2次伊藤博文内閣：日清戦争後，自由党と提携
②第2次松方正義内閣：進歩党と提携（松隈内閣）
(2)憲政党内閣の誕生
①第3次伊藤博文内閣：地租増徴案をめぐって自由党・進歩党と対立
②憲政党結成（1898）：自由党・進歩党が合同
③第1次大隈重信内閣：与党憲政党，最初の政党内閣（隈板内閣）
④共和演説事件：文相尾崎行雄の後任をめぐって，党内対立が激化
→憲政党（元自由党系）と憲政本党（元進歩党系）に分裂，内閣総辞職
(3)第2次山県有朋内閣
①地租増徴に成功（憲政党の協力）
②文官任用令改正…政党員が官僚になる道を制限
③軍部大臣現役武官制制定…政党勢力の軍への浸透を防ぐ。
④治安警察法制定…労働運動・政治運動を制限（ストライキの禁止）
(4)立憲政友会の成立
①立憲政友会結成（1900）：伊藤博文のもとに憲政党が合流（総裁・伊藤）
②第4次伊藤博文内閣：与党立憲政友会
→山県系官僚・貴族院と対立し，1901年総辞職

指導上の留意点

政党が政府に接近することで生じる利点と弊害について考えさせる。

政府と政党が提携した背景には，政府は軍事費などを増大させる必要に迫られ，新たな予算を成立させるためには政党の協力が不可欠になっていたことがあることを理解させる。

文官任用令・軍部大臣現役武官制の内容を説明し，山県のねらいについて理解させるとともに，政党に対する山県の考えを整理させる。
立憲政友会結成について，伊藤博文・憲政党双方のねらいについて考えさせる。

アクティブ・ラーニングのために

(1) 伊藤博文の経歴（イギリス留学，岩倉使節団への参加，殖産興業政策の推進，憲法制定など）と山県有朋の経歴（奇兵隊への参加，近代陸軍の創設，保安条例の制定，地方制度の確立など）を整理させ，伊藤が立憲国家の形成に携わったことと，山県が陸軍や官僚に強い影響力を有したことに気づかせる。
(2) 伊藤と山県の経歴や国会開設以後の政治状況を手がかりに，伊藤が立憲政友会を結成した理由と，山県が軍や官僚から政党の影響を排除しようとした理由を考えさせる。
(3) 日清戦争から日露戦争にかけての日本では，政党が中心となって政治を行うべきだったのか，それとも軍や官僚が中心となって政治を行うべきだったのか，生徒にそのメリットとデメリットを整理させた上で，自由に議論させる。